

（平城）宮大極殿舊址



明治 34 年 (1901) の標木 この標木建設が平城宮跡保存の最初の運動でした。

平城宮址記（令）碑建設地



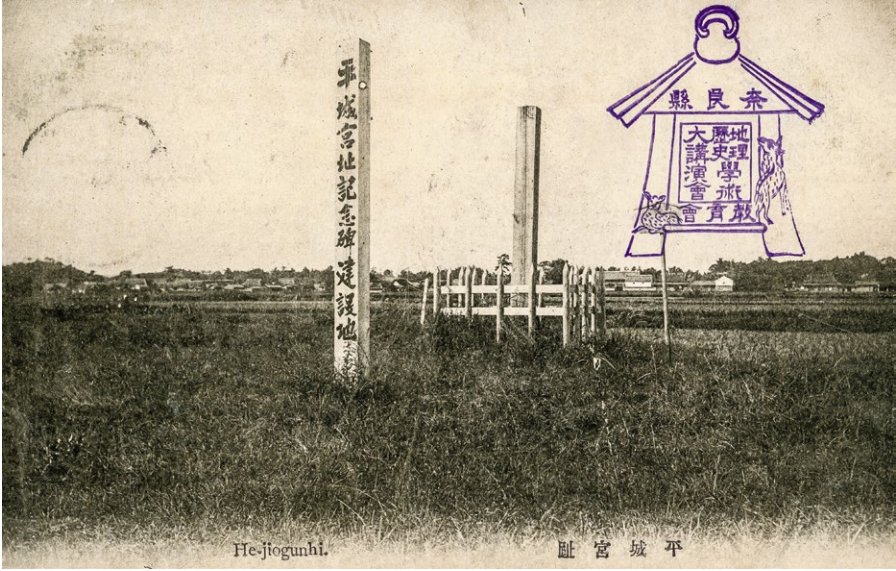
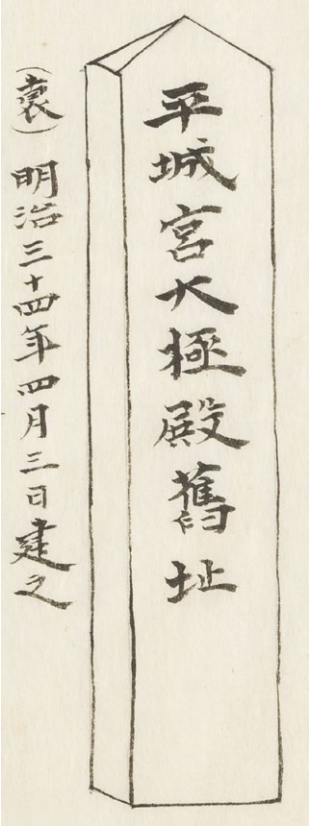
明治 43 年 (1910) の標木 平城奠都 1200 年祭の時に立てられました。

大極殿壇上に立てられた明治時代の標木

木の地肌にうっすらと文字が見えます。風雨にさらされて墨は消えてしまいましたが、墨の部分だけ風化が遅れて、木の地肌が段差になって盛り上がっているのです。

これは、明治時代に第二次大極殿の上に立てられた標木です。もともと 2 本だったのが、切断されて 4 点になっています。2 本とも、もとは高さ 3 m 近くあったと思います。昭和 4 年 (1929) まで立っていました。これらは、平城宮跡保存に尽力された佐紀町の溝辺家に保管されていました。風雪に耐え、現在にまで伝わったこれらの柱は、明治時代の平城宮跡保存運動を物語ってくれます。

（文化遺産部 吉川 聡）



↑ 第二次大極殿壇上の古写真葉書（奈良県立図書館蔵）

大正 2 年 (1913) 以前に撮影されました。

←明治 34 年標木建設時の見取図（「平城宮大極殿旧址建標録」より抜粋）
都跡村元村長の子孫にあたる岡嶋家から近年発見された資料です。